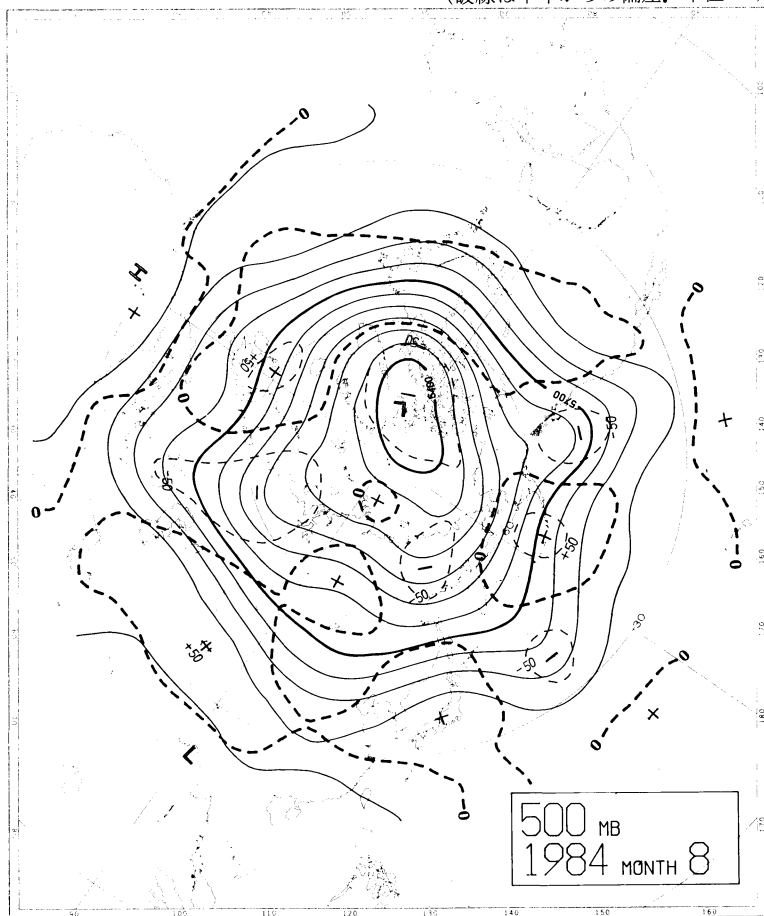


## 月平均500mb天気図. 1984年8月.

(破線は平年からの偏差. 単位 m)

**高緯度3波, 中緯度6波が卓越**

極うずは, 前月に引き続き西半球側にあるが, やや東進してグリーンランド付近にきた. 高緯度では, 西シベリアのブロッキング高気圧はほぼ解消し, 東シベリアのトラフに伴う負偏差域は広がった. このトラフへの北西流による寒気のため, 中央シベリアでは低温(月平均気温の年間偏差が $-2 \sim -3^{\circ}\text{C}$ )であった.

中高緯度では, 東ヨーロッパにある南北に延びた顕著なトラフは, 前月よりも更に深まり負偏差域も広がった. このトラフに伴う寒気移流のため東欧から南欧にかけて著しい低温(年間偏差 $-2 \sim -5^{\circ}\text{C}$ )となった. その西隣の中央アジアでは, 南西流の暖気移流のため高温( $+2 \sim +3^{\circ}\text{C}$ )であった. 一方, 北アメリ

カ北部は正偏差域におおわれ, また西方海上のトラフへの南西流による湿った暖気のため, 西部では高温多雨となった.

7月の日本に高温をもたらしたカムチャカ南東方の広い正偏差域を持ったリッジはやや弱まって東進し, 日本の東方海上は顕著なトラフに変わった. 日本付近を南に連なる正偏差域を持ったリッジがおおい, 日本各地に記録的な猛暑干天をもたらした.

低緯度では, 広い正偏差域を持つ高気圧が北アフリカをおおい, 高温干天をもたらしている.

このように, トラフやリッジとの位置や強弱(正負の偏差)と天候とは, 月平均でみても非常に関係が深い. (気象庁長期予報課 伊藤直敏)